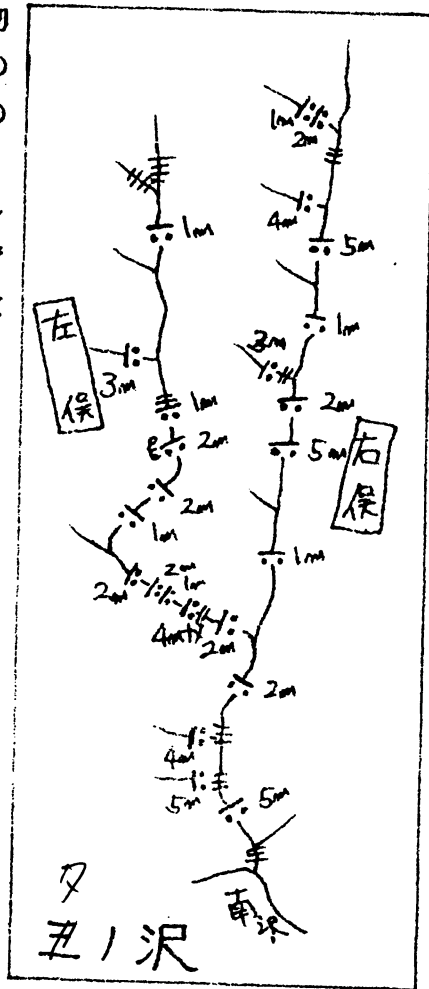


沢筋には、かつての林業用歩道の跡が切れ切れに続いている。この林業用歩道の跡というのがくせものである。木の枝を敷きつめて、その上に土をかけてあるのであるが、腐っていて、所々で足がズボッとめりこむのである。油断していると転倒するはめになる。もちろん、今では手入れなどされておらず、荒れるがままに放置されている。

30分程下って、左俣出合到着。ここでちょっと左俣の偵察に向かう。こちらの沢も花崗岩質で、出合からしばらくの間小滝がほぼ等間隔ででてくる。とはいうものの、せいぜい2m程の落差であり、フリクションもよくきいて、楽に登って行ける。

左に二本目の支沢を分けるあたりからはその小滝もかからなくなった。沢の流れも乏しくなり、暗い樹林帯の中を細々と続いているのみとなる。30分ほど遡行して、ほぼ源頭に達したので、小休止して引き返す。

左俣の偵察は約1時間で終了したので、再び下降を続ける。5mの滝をクライミングダウンし、ナメを越えると南沢との出合であった。



(記)

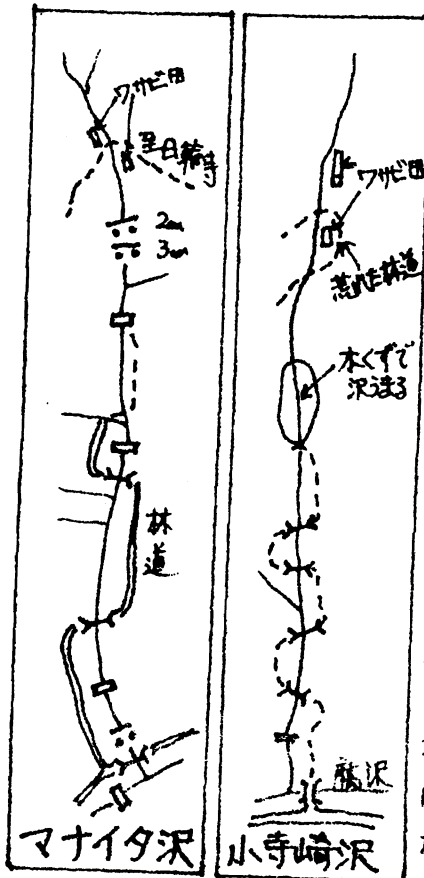
[タイム] 三ノ沢下降開始(7:50)→左俣出合(8:25)→左俣終了(8:55)→右俣出合(9:20)→南沢出合(9:35)

マナイタ沢

1986年5月25日

4:30, 出合に車を止め、明るくなるのを待ちかねて出発。出合は暗く、すぐ小滝をかけて雰囲気は上々である。マナイタ沢とは、名前からしてなんだかいわくありそうだし、期待できるかなと思ったのであるが、砂防ダムを越えたあたりから全く平凡な沢となってしまった。

とにかく何も無い。沢を歩いていてもしゃくなので、並行している林道を歩い



て時間を稼ぐ。30分程歩いた頃、砂防ダムを越えた所で、ようやく林道は終点となった。

さてこれからは何か出てくるだろうと、気を取り直して進む。すぐ木製の簡単な土砂の流出防止柵が出てきた。そしてその脇には、高さ3m程のコンクリート製の土台がある。あたりは、人工的に整地されたようにも見える。材木か鉱石か、とにかく何かの集積地があったところのようである。

ここをすぎると、まもなく3mの小滝、そしてすぐまた2mの小滝が出てくる。いずれも簡単に越すが、これは沢の様相が変わる前触れではないかと期待をもたせる。しかし、これまた見事にハズレ。沢は平凡なままに日輪寺に向かう遊歩道出合を過ぎ、源頭になってしまった。水の流れも途絶えた所で、左手の山腹にある登山道に上がる。山体深く浸食の進んだ沢であったが、沢そのものは平凡であった。

[タイム] マナイタ沢出合(4:35)→林道終点(5:05)→日輪寺遊歩道出合(5:35)→沢終了(6:00)

小寺崎沢 1986年5月25日

日輪寺遊歩道分岐点から、まずは820m独標をめざす。途中まで踏跡があるので、それを利用し、あとはやぶこぎとなる。しかし、そうたいしたヤブでもなく、5分程で山頂着。何の特徴もないピークで、展望もきかない。

6:25, 820m独標より小寺崎沢へ向けて下降開始。あまり手入れのよくない杉林の急斜面を5分程下ると、沢の形態をとりはじめ、更に15分程で水が出てくる。しかし、沢は平凡。

やがてスギの美林の中に入る。するとワサビ田が出てきた。コンクリートのワクの中いっぱいワサビが茂っていた。